

## 世界臨床検査通信シリーズ-47

### “WHO Model List of Essential In Vitro Diagnostics” の紹介

## B型肝炎・C型肝炎 2.

東京大学医科学研究所附属先端医療研究センター 感染症分野 教授 四柳 宏

### 1. HBV, HCVに対する検査ガイドライン

Global Hepatitis Reportが出されたのは2017年8月であるが、これに先立ち、HBVおよびHCVに対する検査ガイドラインが公表されている<sup>1)</sup>。“Executive Summary”において“B型慢性肝炎・C型慢性肝炎は低・中所得国で特に高頻度であり、頻度の低い国においても静脈薬物常習者、男性間性交渉をする者、HIV感染者などで大きな問題である”と書かれている。社会的弱者におけるインパクトが特に大きいということになる。

HCVは直接作用型抗ウイルス薬 (Direct Acting Antivirals; DAA) により高率に排除可能となった。HBVは排除が難しいがHIV同様核酸アナログ製剤により低レベルにコントロールすることが可能になった。またHBVに関しては出生後早期のワクチン接種、HCVに関しては汚染された針の使用を防ぐ (harm reduction) により感染の防止が可能になっている。HBV, HCVの検査、引き続いての介入によりHBV/HCVの感染者、死亡者を減らすことをゴールとして検査ガイドラインが策定されたわけである。

この戦略に肝炎検査の占める位置付けを示したのが図である<sup>1)</sup>。

- ・スクリーニング検査としてHBs抗原、HCV抗体
  - ・現在の感染の確認／治療介入の判断検査としてHBV DNA, HCV RNA (もしくはHBcrAg)
  - ・受検率を上げるために“Dried Spot Test”による検査
- という戦略が示されている。

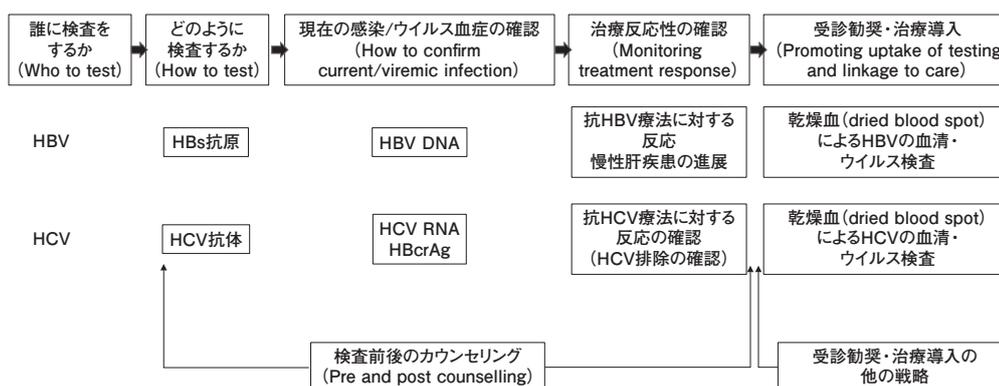


図 検査と並行した継続的な肝炎対策 (文献1 23ページより改変)

#### 文献

1) WHO Guidelines on hepatitis B and C testing.

<https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/254621/9789241549981-eng.pdf>. World Health Organization, Geneva 2017

(全3回連載、次号に続く)